

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称

施策I-2-1
売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

川津章弘

電話番号

0852-22-5137

事務事業の名称	畜産技術センター研究費	
目的	(1) 対象	県内畜産農業者
	(2) 意図	畜産に係る研究や開発により得られた新技術を畜産農家に提供することにより、飼養管理技術の向上と所得向上を図る。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖技術、肉用牛、酪農、資源環境に関する研究（6題）や、飼料の依頼分析、精液製造等の活動を実施。 ・このうち、H27年度に終了した研究課題は、繁殖技術に関する研究1題（優良牛増産のための性別別精液を用いた体内受精卵生産法の確立）。 	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	終了した試験研究課題総数のうち、その成果が「普及」又は「目標達成」と評価された課題数の割合	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	%
	式・定義	その成果が「普及」又は「目標達成」と評価された課題数/終了した試験研究課題総数	実績値	100.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	153,945	152,716
うち一般財源(千円)	74,317	65,795

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・県内畜産農家や指導機関のニーズに基づき、生産現場に反映できる研究に取り組んでいる。
- ・繁殖技術では受精卵移植の利用・普及に努め、県内で約1,100頭の移植実績がある。
- ・肉用牛では、「しまね和牛肉」のブランド強化のため、美味しさの新たな評価項目（基準）を研究している。
- ・酪農・資源関係では、飼料用イネ（イネWCS）や飼料米の利用性向上や飼料用イネと麦の二毛作栽培体系を研究している。
- ・種雄牛造成では、年間4頭の候補牛の能力検定を行い、「久茂福」、「勝昭茂」の2頭を選抜した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・性別別精液を用いた体内受精卵生産法が確立したこと、肉用牛においては、効率的な後継牛（繁殖雌牛、種雄牛）の造成や肥育素牛の生産、乳用牛においては、後継牛（雌牛）の生産が可能となり、生産者の希望する性別の牛を効率的に生産することが可能となった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・国内他産地や輸入牛肉に対する競争力を高めるため、生産に係る低コスト化技術や商品力向上、差別化（高付加価値化）のための手法が求められており、今後も課題解決のための研究が必要。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・肥育素牛価格、繁殖雌牛素牛価格、乳用後継牛価格の高騰や輸入飼料の高止まり等に起因する畜産経営の悪化。

③原因を解消するための「課題」

- ・しまね和牛肉の新たな美味しさ評価基準の策定や飼料自給率向上のための飼料栽培・利用体系構築の研究。
- ・和牛子牛生産を増やすための受精卵移植の高位安定化技術、優良繁殖雌牛育成のための飼養管理技術の普及。
- ・「しまね和牛」の能力向上のための育種改良の促進

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・引き続き、課題解決のための試験研究の実施と普及に取り組む。
- ・また、県内畜産農家のニーズを的確に把握し、必要な試験研究に新たに取り組む。
- ・研究成果を生産現場に普及させるため、研究報告や畜産技術レポート等にまとめ、発表会、研修会、ホームページ等を活用して、県民に広くPRしていく。
- ・また、普及部や家畜衛生部との連携により、畜産農家への技術定着を図る。

9. 追加評価（任意記載）

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。